

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4077800086
法人名	(有)ウェルフェアサービス
事業所名	グループホームほほえみ館
所在地	福岡県久留米市城島町城島37-2
自己評価作成日	平成23年2月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根ざした施設作り。 上野医院との医療連携の充実を計り利用者への安心の確立を計る。
--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成23年2月17日	評価結果確定日	平成23年3月9日

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆったりありのままに過ごしていただくを理念に基づき個人に対して職員全員が取り組んでいる。定期的に理念に関する研修を実施している。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の祭りやイベントに参加して地域との交流を図っている。防災協会に入ることによって地域の一員として町内の方々と交流し親睦を深めることが出来るように努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ほほえみ便り、広報を地域の方や御家族に配布する事で認知症であっても住み慣れた場所での暮らしを生活出来る事を伝えている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回会議を開催しており、困難事例やケアの現状、ヒヤリハット等を報告し委員から頂いた意見をスタッフ会議で報告検討している。行事の参加を御家族に呼びかけ実施後は感想等を伺うことで次に活かしている。他施設の取り組みを知る機会にもなっている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点や困った事など生じた場合は電話で相談したり出向く等して問題解決に取り組んでいる。運営推進会議にも出席して頂き意見など参考にしている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議で拘束について学んでいる。具体的にどのような事が拘束になるのか研修会を開催し職員全員に伝えている。玄関は午前8時～午後6時まで鍵をかけないようにし、その間はチャイムを使用している。身体拘束排除に関するマニュアルを設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議で研修会を開催し、職員全員で、学んでいる。高齢者虐待防止法などの館外の研修には積極的に参加し、スタッフ会議にて報告している。		
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町内での人権研修に参加しスタッフ会議での報告を行い、活用に繋げている。資料をスタッフや御家族の目に届きやすい場所に置いている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時より詳細に説明するように心掛けている。契約時にも再度説明し、御家族様の不明な点や疑問点を尋ねている。施設において可能・不可能な部分等説明もしている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情・相談箱を設けている。また外部の苦情相談窓口の連絡先を掲示している。意見等があった場合は、スタッフ会議で検討している。介護相談員を利用している。		
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を設け、困っている事など問題をピックアップし職員全員で協議している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々人の勤務状況を評価し給与水準のアップを計っている。又資格取得等に対して、積極的な働きかけと研修日程、費用等の補助を実施している。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に際しては性別に関係なく本人の高齢者に対する思いや積極性を考慮している。個々人の健康管理に十分配慮し、お互いが協力した職場作りに努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	近隣で実施されている人権研修に対して積極的に参加しスタッフ会議において全員に報告してもらっている。		
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修参加し、スタッフ会議にて報告・検討している。各フロア毎に事例を取り上げ運営会議等に報告したり全員で検討会等実施している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との連絡を取り、お互いの意見交換等実施している。又、地域交流会に出席し、交流を計っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前調査を行い、生活で困っている事や入居に対してどう思っているかなどを伺っている。生活歴などを参考にし、早い段階で顔なじみの関係が出来るように努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームでの生活に望まれる事や自宅での生活状態を聞くようにしている。本人にどんな暮らしをしてほしいと思っておられるのか等を伺っている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話での問い合わせや見学時にグループホーム以外のサービスもある事や入居に対して迷いがある時はショートステイや体験入所を利用してみる。認知症状に困っているなら、専門医に相談してみるなど色々な方法を伝えている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯物をたたんだり、裁縫の得意な入居者にはボタン付けなどをしてもらうなど、共に生活する事を念頭に置いている。入居者の思い出話や出来事に耳を傾け思いを共有しながら、学ばせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	面会時に情報提供、現在の生活状態な どを伝えている。御家族からも以前の 生活状況や本人の生活歴などを教えて 頂き、ケアに活かしている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所 との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に通われていた美容室、病院に 行ったりする事で、馴染みの人や場所 との関係が途切れないように努めてい る。花見などの外出、行事も出来るだ け地元にて行っている。		
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者の生活歴・利用者同士の相性等 の把握に努めている。洗濯物たみ、 お膳拭き、掃除など利用者それぞれの 力を活かしながら関わり合えるよう に支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退居された方や、入 院された方でも出来る限り御見舞に 伺ったり御家族が今後の生活に不安を 抱えている時は相談にのるなどしてい る。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	会話や生活の様子など注意深く観察、 検討し意向の把握に努めている。本人 の好む事などその都度伺い一人一人を 知る事に努めている。		
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居前の事前調査で生活歴や趣味を把 握し馴染みの生活が出来るように努め ている。以前使っておられたサービ スの種類、状況もできるだけ把握する ように努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	どんな事が快・不快に繋がるのか、適 宜記録し把握に努めている。スタッフ 間で気になる事は検討し、引き出せる 力がないか、できなくなっている事は ないか把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ケアにあたっている職員に意見を聞き出来るだけ、意見を取り入れたケアプランを作成している。御家族様面会時に希望や心配な点を伺いケアプランに反映している。		
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活での変化や気づきをケース記録に記入している。職員間でも情報をやりとりし共有している。声かけの仕方、工夫など上手くいった場合等具体的に記入している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスに通われていた方が在宅生活が困難になった時はグループホームに入居しながらもデイに遊びに行くなど、多機能性を活かした支援に努めている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の理髪店に来館してもらったり、行きつけの理美容室がある方は、理美容室に連れて行っている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、御家族等の希望があるなら、入居前のかかりつけ医の受診が出来るようにし、適切な医療が受けられるように対応している。		
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人様の状態がいつもと違うやバイタル表の変化を医師、看護師に伝え、指示をもらい受診が必要な場合は受診するようにしている。定期的に母体医院より医師、看護師が来館している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は生活状況や身体状況などを記入した介護サマリーを添付している。また入院時は職員が出来るだけ付き添い、口頭で情報を伝えている。不明な点は遠慮なく問い合わせしてもらおうよう申し添えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルを希望された御家族には早い段階から、主治医と話し合いをし、グループホームで出来る事、出来ない事、御家族が希望される事を十分に話し合い同じ思いと方針を持って支援できるように努めている。書面での説明も十分に行っている。		
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時に備え、応急処置、初期対応の訓練を行っている。AEDの取り扱いも含め訓練している。全職員が応急処置の仕方がわかるように簡単なマニュアルを備えている。		
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の際は地域の方に呼びかけ、参加を促している。定期的に避難訓練を行い避難方法を身につけるようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーを損ねないように声かけには特に注意を払っている。排泄の声かけや失敗の後始末は個々に応じて他者に分からないようにしている。入浴も個浴になっている。居室のネームプレートは御家族の了承を得て掲示している。		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が言葉で表せなくても、表情や動作、以前の生活から推測出来る事はないか、注意深く観察して自己決定の支援に繋げている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が一方的に時間を区切って介助するのではなく、本人のやろうとする意欲やペースを大事にしている。就寝までの過ごし方などできるだけ個別に対応している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の乳液や化粧水など本人様が居室にて行っている。行事の時は、希望される方はお化粧したり、一緒に服を選んだりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会では好みのメニューを取り入れている。食事制限のある方でも食べる楽しみが持てるよう、主治医と相談し嗜好品を取り入れたりしている。食後のテーブル拭きやお膳拭きなど進んで行われる。		
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量が1400~1500カロリー前後になるように栄養士や調理士により献立が立てられる。お茶やヨーグルトなどで水分補給しているが、あまり飲まれない方はお茶ゼリーなどにし工夫している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者に口腔ケアの声かけを行っている。自分で磨ける方には見守り程度にし、口腔内清潔に努めている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄チェック表を設け排泄パターンを把握しトイレ誘導に役立てている。言葉で訴えられない方でも、その人なりの排泄サインを見つけ誘導している。すぐにオムツに頼ったりせずにどこに問題があったか把握し工夫する事で排泄の自立に努めている。		
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便の状況を把握している。便秘気味の方には水分を多く摂ってもらったり医師に相談し寒天末などを味噌汁に混ぜるなどし便秘予防に努めている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個浴でゆっくり楽しんで頂いている。職員と一対一で入り、好きな話などをしリラックスして入浴してもらっている。出来る部分は自分でしてもらい、出来ない部分の手伝いをしている。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣や状況に応じて支援している。夕食後にフロアでテレビを見たり、自室でテレビを見たりなどして過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に内服している処方箋を挟んでおり、服薬の変更時には連絡ノートに記載し職員が把握できるようにしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物シワ伸ばしや、たたみなどを進んで手伝われる方、お膳拭きを手伝われる方、書道が得意な方には行事の看板を書いてもらうなどしている。それぞれが生活の役割を持って過ごしてある。		
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、夏祭りや運動会については、参加してもらっている。体調や季節を考慮し中庭へ出られるようにしている。		
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力に応じてお金を持つことが出来る。嗜好品なども定期的に購入する事が出来るようにしている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じて支援している。遠方の御家族様には電話を取り次いだりしている。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用されていた椅子、身の回りの物などを持ち込んでもらっている。居室のベッドの位置などに注意し安心して生活出来るようにしている。		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じフロアーでも落ち着く場所が一人一人違う為、それを把握している。また気の合う利用者同士を近くの席にするなど工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用されていたタンスや日用品などを持ち込んでもらい、使い慣れた物を置き、安心して生活出来るようにしている。		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、居室にはそれぞれ分かる力に応じて目印を付けている。個人の持ち物には分かりやすく名前をつけ、本人が把握しやすいようにしている。		